

ボランティア特集を1号、2号と発行してきました。その後、メンバーの熱い思いもあり次々と活動を計画し感動と達成感を味わってきました。

第3号では、ボランティア活動に参加したメンバーと被災者の想いや感想を中心に紹介します。皆様の共感を得て物理的にも精神的にも応援していただくことを願っています。できれば私達龍 JIN の活動の輪の中に入れていただけるとさらに嬉しいです。

平成23年8/25(木)バスボランティア第2弾宮城県七ヶ浜町 がしきの地をポピーの花でいっぱいになりたい～子どもたちの夢

高校生が学校行事の関係で参加できず、一般参加者29名で第1弾に続き宮城県七ヶ浜町に瓦礫の片付け中心の活動に行きました。

今回の活動には那須烏山市にある学童保育の NP0 法人「野うさぎくらぶ」の子どもたちからあずかったメッセージ入りのポピーの種を被災地に届ける使命をあずかってきました。ボランティアセンターのスタッフに「被災地をポピーの花でいっぱいになりたいという思いで種を集めました」と子どもたちの夢を話しながら渡しました。



子どもたちの思いがいっぱい
つまった種を届けました



26人で瓦礫処理、となりにショベルカー

◆心のがれき処理がボランティアの大きな役割

なんと！26人の一日がれき処理量とショベルカー数掘り量が同じ量？

右上の写真は今回依頼された庭に残った土砂を26人でスコップで取り除いている様子です。私たち龍 JIN のチームワークでとてもきれいにしかも丁寧に終了することができ、達成感をみんなで味わいました。

しかし、隣りでショベルカーが作業していましたが私たち26人の一日掛かりで積み上げた土嚢の量とショベルカーの数掘りで積み上げた土砂の量が



龍 JIN のチームワークでとてもきれいになりました

ほとんど同じなのです。しかし量は同じでも質が全く違うのです。

私達が作業をしている時に、この家の親戚の方がお礼に見えられ「実は、家族の葬儀に間に合うように今まで少しずつ土砂や雑草を片付けていましたが、とても間に合わず悩んでいました。思い切ってボランティアのみなさんをお願いして良かったです。きれいになった庭を見て思わず涙がこぼれました。本当にありがとうございました」と話されました。

ショベルカーでの作業では多分、このような気持ちにはならないのではないかと思った時、私達ボランティアの役割は心の瓦礫を取り除くお手伝いだと強く思いました。そして、この役割はとても大きくボランティアの最大で最高なものではないかと思いました。

平成 23 年 8/28(日)市内仮設住宅「復興岩子夏祭り」実施 我が町は栃木県で唯一仮設住宅が設置された被災地

龍 JIN メンバーから「私たちの町も被害地なので何かお手伝いできないか」との提案がありました。関係者と調整し、那須烏山市岩子にある栃木県唯一の仮設住宅(20 世帯)の皆さんと一緒に子どもたちを元気にすることで大人たちも元気になる「復興岩子夏祭り」を実施することになりました。キャッチフレーズも「震災を子どもたちの元気と笑顔で吹っ飛ばそう！」です。



開会宣言する子ども代表

この夏祭りには、趣旨に賛同して市長を始め多くの方々が応援してくれました。

食べ物関係では、ベルギー出身のダークさんのバーベキューです。彼の活動費は母国でのチャリティコンサートや義援金でまかなわれています。

また、野菜は民生委員有志の皆様が提供してくれました。子どもピザ教室は材料も含めて、むらおこし応援団の皆様が、加えて栃木コープさんがかき氷を無償で提供してくれました。たくさんの皆様のご厚意がとても嬉しかったです。以下は夏祭りの様子です。



バーベキューはボリュームいっぱいでした



子どもピザ教室は真剣そのものでした



大人気のヨーヨーつり

子ども遊びブースは、子どもたちを釘付けにしました。ヨーヨーつりやバレーンアートコーナーに夢中になって他のブースからの呼びかけに見向きもしない状態が続きました。



大いに盛り上がったスイカ割り



オリオリの皆さんの歌声に圧倒されました



高校生のダンスにも圧倒されました

ゲスト参加によるアトラクションも大変豪華でした。今回の夏祭りに大きな花を添えました。オリオリゴスペルクワイヤーの皆様の歌声は迫力満点で体の芯までエネルギーを詰めてもらった思いです。また、7月の七ヶ浜町ボランティア活動に参加した鳥山高校のダンス部も応援に駆け付けました。彼らの演技には立ち居振る舞い全てに若さが溢れていて元気とやる気と勇気を与えてくれました。「すばらしい！」というおばあちゃんの掛け声にとっても温かい気持ちになりました。

夕闇が迫るころ、祭りのクライマックスを飾る花火大会が始まりました。

プロによる花火大会には度肝を抜かれました。

花火師である市内志鳥の木下さんのご厚意により破格の値段で本物の花火をたくさん打ち上げていただきました。「住宅の皆さんに喜んでもらえましたか」という彼の言葉にも感激しました。本物の花火の後に子ども花火大会をしつとりと行いながら祭りを修了しました。



迫力満点のいかんべ流れ太鼓



本物の花火にびっくりしました

チーム龍 JIN のメンバーから「私たちの町も被災地であり、私たちも何かお手伝いができたら嬉しい」という提案から始まった今回の夏祭りは、たくさんの共感者からの応援により素晴らしい活動になりました。被災された住宅のお母さん方には共催という形で私たちと一緒に活動していただいたことも「とてもありがたかった」という嬉しい声で答えてくれました。今回のお祭りで得た交流関係を発展させたかったので「今度はお母さん方を中心にして暮れのクリスマス会を企画してみませんか。勿論私たちもお手伝いしますよ」という提案に対して「嬉しいです。ぜひやってみたいです」と答えてくださったことに感激しました。今回、とても嬉しかったことはどのブースもみんな主役で楽しそうに活動していたことです。さらに嬉しかったことは次の日の朝、会場を確認に行ってみてチリひとつ落ちていなかったことです。活動が確実に定着しているなと感じ、さらに元気とやる気と勇気をもらった「復興岩子夏祭り」でした。

那須烏山のボランティア
復興は笑顔から
仮設住宅で祭り



仮設住宅の敷地内で開かれた夏祭り

【那須烏山】「復興岩子夏祭り」震災を子どもたちの元気と笑顔で吹っ飛ばそう」が28日、岩子の仮設住宅の敷地内で開かれた。市災害ボランティアチーム龍 JIN が企画。県内で唯一となる

仮設住宅には5月から20世帯約60人が入居しており、同住宅代表の曾根原勉さん（63）は「ゆっくりだが、確実に生活再建の歩みを始めている。その中でこんな祭りができるの

はありがたい。楽しい手と歓声が上がっているときを過ごした。いとあいつ。祭りでは、バーベキューをはじめ、オリオリコスベルクワイヤーの歌や烏山高ダンス部のダンスを披露。子ども向けにはビザ教室やヨーヨー釣りも行われた。スイカ割りでは目隠しした子どもたち「もう少し右」「そこだ」などの声がかかと手応えを感じていり、見事に割れると拍た。

本活動は各種メディアに紹介していただきました。記事は下野新聞

平成 23 年 9/10(土)～9/11(火)牡鹿半島炊き出しボランティア ボランティアの役割は前向きな気持ちを引き出すお手伝い

ベルギー出身のダークさんを含む龍 JIN メンバー有志 6 名と東京からの応援者 3 名の合計 9 名で石巻市荻浜仮設住宅で炊き出しを行い、翌日には次回以降のボランティア活動へつなげる現地調査を実施しました。

この仮設住宅に住んでいる漁業協同組合の理事さんご夫妻と話した内容がとても心に残りました。ご夫妻は「国や行政はなににもしてくれないが、ボランティアの皆さんが一生懸命応援してくれている。何もお礼ができず申し訳ない。お礼は今まで我々の生活を支えてくれた牡蠣の養殖をなんとかしても復興させることだけです。何年かかるかわからないが復興できた時、皆さん食べに来てくださいか」と話されました。

「勿論、成功した時は家族で食べにきて一緒に喜びたいです」と伝えました。

この時、隣りにいた奥さんが「そうなるようにお父さん！諦めず頑張ろうよ」と涙を浮かべて話されました。

ボランティアの役割を心の瓦礫取りと強く思っていました、さらに前向きな気持ちになるお手伝いだと思います。人間は、何としても実現したいという夢や目標を持つと必ず実現することを信じて疑わない私にとって、この役割はとても大きく、嬉しく心温まるものでした。

◆牡蠣の養殖の復興作業を手伝わせてください～次回のバスボランティア活動の内容が決まりました

荻浜地区は、牡蠣の養殖を復興させようと息子さん世代が前向きに活動を始めた聞き、是非、私達龍 JIN にお手伝いさせて欲しいとお願いし、次回のバスボランティア活動の内容が決まりました。

具体的には、牡蠣の養殖の準備作業や浜辺の清掃、仮設住宅周辺の片付け等、息子さん世代が地道に活動を始めた内容を側面からお手伝いすること。また、昼食を仮設のお母さんたちと私達と一緒に炊き出しを行い、息子さん世代も含めて全員で食べることを快く了解していただきました。

私達が一方的に作り、被災された皆様が食べるという方法でなく交流することで心の瓦礫取りと前向きな気持ちになるお手伝いになれたらいいなと思いながら提案し気持ちよく応じていただいたことで温かい気持ちでいっぱいになりました。

以上の内容を織込んで10月1日に石巻市荻浜地区でバスボランティア第3弾を実施することになりました。

詳細は小堀情報夢新聞第4号に掲載いたします。



炊き出し活動の様子



チーム龍 JIN のバス用横断幕



那須烏山市災害ボランティアチーム龍 JIN